



Lion

最上川



No.4



L. 小関ガバナーより L. 佐野次期ガバナーへ「ガバナーキー」の伝達式
2021年6月18日（金）（タスパークホテル）

ガバナー・テーマ

「確かな奉仕を 地球と未来に！」
～思いやりで We Serve～

アクティビティ・スローガン

「我等の奉仕は、輝く社会を創造します」

CONTENTS

今期を振り返って	P2
三役として1年を振り返って	P3
332複合議長として1年を振り返って ..	P4
副地区ガバナーとして1年を振り返って ..	P5
キャビネット役員として1年を振り返って ..	P6
アクティビティ	P11
MJF 寄付者	P16
新入会員名	P17
マンスリーレポート	P18
あとがき	P19
山形を巡る	P20



コロナ禍の中での一年を振り返って

ライオンズクラブ国際協会
332-E 地区 地区ガバナー

L. 小関 利一

2019年度後半の2月以降は新型コロナウイルスの問題が席卷し、クラブの奉仕活動に影響がありました。

今年度はコロナ禍の中で、「試される奉仕の心!」

新型コロナウイルス感染症が流行し、多くの人が外出を自粛しています。ライオンズクラブにとっても、例会やイベントを制限せざるを得ない為、従来の奉仕活動がしにくくなって、残念でなりません。そんな中でも困っている人の助けになろうと活動しています。

昨年2月上旬、アメリカのシカゴで世界中からガバナーエレクト（候補者）が研修会に参加させて頂きました。その際に感じたことは、肌の色や言語が違っていても心は一つ、助けを必要とする世界の人々に、創意工夫して奉仕することを考え決意して帰国しました。

地域社会のニーズに応えるために、会員各位の協力、協調性が肝要です。我々ライオンズが誇りを持って人々に寄り添い活動するために、しっかりと対応できる組織づくりを進めなければなりません。

日本はこれまでも数々の困難を乗り越えてきた歴史があります。我々は将来の子供達に希望を持てる社会をつくる為にも、ライオンズ活動を持続可能にするかが肝要です。

「キャンペーン100」の実施期間を一年延長し、2022年6月30日までとすることが今年の5月のLCIF理事会で決定されました。

一方で、この新型コロナウイルス流行に対しても、世界各地のライオンズは自らの生活が脅かされる中で立ち上がり、マスクの提供、医療従事者への食事の手配、病院設備の寄贈などの奉仕活動を実施。LCIFもこれに対し350万ドル以上の交付金で支援を行いました。

日本ライオンズは2020年4月の時点で2019年度LCIF寄付目標の92%を達成しています。皆様の寄付に心から感謝申し上げます。

キャンペーン期間は延長されますが、2022年度中に日本の目標を達成すべく、引き続きご協力下さい。キャンペーンの終わりがLCIFの終わりではありません。キャンペーンを今後行わなくても毎年1億ドルの寄付が集められる組織となり、ライオンズが世界のニーズに応えるための事業に対しより多くの交付金を安定して提供出来る財団となることが、究極の目標です。2022年度もどうぞご支援をよろしくお願い致します。

一日も早く新型コロナウイルス感染が収束するように、心からそう祈っております。

6月30日で、地区ガバナーの任期を終えます。任期中は公私にわたり格別のご厚誼を賜り、喪心より厚く感謝申し上げます。今後は一会員としてライオンズクラブの発展に寄与してまいります。皆様のご健勝、ご多幸、ご活躍をお祈りし、御礼の挨拶とさせていただきます。



ライオンズクラブ国際協会 332-E 地区

第 67 回地区年次大会記念アクティビティ



長井市役所新庁舎（内容重治市長井市長）へ「案内用電光掲示板」の寄贈



長井市立南・北中学校（土屋正人教育長）へ「青少年育成活動支援金」を贈呈



「一年を振り返って」

キャビネット幹事

L. 手塚 直樹

(長井 LC)

この一年、皆様方からにはL.小関利一ガバナーへのご支援、そしてキャビネット運営には多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

コロナ禍の中、前三役からの引継ぎも思うようにいかないまま新年度がスタートいたし、様々な会議やセミナーも中止あるいは延期となり、さらには、7月豪雨が九州・中部地方で発生し、県内でも最上川が氾濫する災害が起きてしまいました。支援の一刻も争う決断がのしかかりましたが、L.山下アラート委員長や4R1ZのL.加藤 ZC の素早い対応には大変ありがたく感謝を申し上げます。そして9月に開催されたアラートセミナーは、今期唯一のセミナーとなっていました。

そして全9か所のガバナー公式訪問。残念ながらガバナー晩餐会は中止とし、三役協議会と

公式訪問を開催していただきましたが、各R各ZともL.小関ガバナーを快く歓迎をしていただき、温かいおもてなしをいただきました。各ZCの皆様方には大変お世話になりありがとうございました。

L.小関ガバナーより、委員会の開催中止や理事会・例会の規模の縮小、飲食の自粛など、苦渋のお願いをいたしまして、各クラブとも思うような活動はできなかった1年間であったかと思えます。しかしながら、会員の皆様や家族の方々の健康を守り一年を締めくくり、L.佐野宏美ガバナーへと引き渡すことができたのは、この上のない喜びであります。

第103回のカナダ・モントリオールでの国際大会もバーチャル開催、2020オリンピック・パラリンピックも無観客での開催となりました。まだまだ先が見えない世の中ではございますが、2021～2022年度L.佐野ガバナーのご活躍とご健勝を、また地区年次大会や国際大会が開催される日常に戻っていることを祈願し一年の締めくくりといたします。

一年間ありがとうございました。



「一年を振り返って」

キャビネット会計

L. 増田 源幸

(長井 LC)

小関ガバナーのもと一年間キャビネット会計を務めさせていただきその間地区内各クラブ会員の皆様には絶大なるご協力をいただきましたことに深く感謝申し上げます。

年度当初からコロナ禍の中で必要な会議を思うように開くことができず皆様にはご苦労をおかけいたしました。

人類の歴史の中で幾度かの感染症との戦いがあったそれを乗り越えて今日があると聞きますがこれ程長期化するとは考えもしませんでした。活動を振り返る中で非常に印象に残っているのが「ガバナー公式訪問」でした。ガバナーに随行して地区内1リジョン、8ゾーンにお伺いし各クラブがこのコロナ禍のなかで工夫を凝らした例会の開催や奉仕活動を実践されている

ことを伺いとても参考になりましたし歓迎いただいたことに感激いたしました。

唯一残念なのが例会終了後の懇親会でさらにお話を伺うことができなかったことです。

一年間を振り返り会計としての務めが十分果たせたのだろうかと反省することばかりですが忘れることができない一年でした。地区内各クラブのますますのご発展と、会員皆様のご多幸をお祈りするとともに一日も早くこのコロナ禍が終息し平穏な日常が戻ることを願うばかりです。一年間ありがとうございました。



●第2リジョン合同現・次期三役引き継ぎ会



「332複合地区議長としての一年間を振り返って」

ライオンズクラブ国際協会 332 複合地区

ガバナー協議会議長 **L. 伊藤 明彦**

(山形蔵王LC)

ライオンズクラブ国際協会 332 複合地区第 67 回年次大会を安澤荘一国際理事はじめ、ご来賓各位、そして東北六県各準地区からの皆様をお迎えし、新緑爽やかな蔵王連峰望む山形市において盛大に開催すべきところ、昨年に続き新型コロナウイルス感染症拡大により今年もやむなく大会中止の運びとなりました。皆様の健康、安全が何事にも代えられぬとの判断ではありますが、誠に残念の一言に尽きます。大会成功に向け準備いただきました関係各位には心より御礼、感謝申し上げます。

昨年来のコロナ禍の中、今期のガバナー就任式は国際大会中止によりリモートで行われ、ジュンヨル・チョイ国際会長は今期も続投となり、我が 332 複合地区からの安澤荘一国際理事も 1 年任期が延長され、この 6 月末をもち退任となります。国際協会中枢でのご活躍に心から敬意と御礼を申し上げたいと思います。

今期 332 複合地区アクティビティスローガンを「サステイナブル・アクティビティ ～持続可能性のある奉仕活動を～」とし、東日本大震災より 10 年目のこの年、思いやりと多様性で結束する 332 複合地区に成長するよう準地区ガバナーと共に真剣に取り組んでまいりました。地球上のだれ一人も取り残さない持続可能な社会づくり、人が豊かな暮らしを続けていくためにはどうすればいいのか、どのような社会になれば持続できるのか。毎年起こる大型の自然災害、そして新型コロナウイルスパンデミック等、今後も続くこのような課題に少しでも貢献できる奉仕活動を全力で取り組んでいきたいと考えます。何より私たちは東日本大震災復興が完遂するまで、「東北は一つ」という強い絆で、寄り添い、共に歩んでいきましょう。

このコロナ禍の中 332 複合地区の活動も変更、中止を余儀なくされ、郡山市での全日本アラートフォーラムの中止、各種会議は Web での会議が多く行われ、地区運営の仕方も新しい方法へと模索が続いております。しかし、状況が困難な中でも少しでも前に進もうとする 332 複合の結束力を私は多くの場面で確信いたしました。We Serve に真摯に向き合い、この今をライオンズクラブが持続可能性を考える時期としてとらえ、皆で英知を結集し進んでまいりましょう。「明けない夜はない」

終わりに、332 複合地区のますますの発展、一日も早い新型コロナウイルスの終息、そして来年こそは皆様の笑顔の下 332 複合地区年次大会が盛大に開催されますことを心から願い、皆様のご健勝を祈念申し上げ挨拶いたします。





「一年を振り返って」

第一副地区ガバナー

L. 佐野 宏美

(天童中央 LC)

小関ガバナー率いるガバナーチームの一員として一年間活動してきた訳ですが、一言で言い表すならば『“はがゆい”一年だったな』と回想しております。

ただ、コロナ禍という制約がある中での小関ガバナーそして長井キャビネットが1,700名を超えるメンバーひとりひとりの安全を100パーセント担保しつつ局所での局時的な決断、ベストな選択をなされたと改めて敬意を表したいと思います。

私個人、第一副地区ガバナーとしては通常行われる2月シカゴでの研修は中止、それに代わる研修として約三ヶ月にわたるリモートセミナー、加えて6月末に予定されていたカナダ モントリオールでの国際大会も中止になり、それに代わるバーチャル国際大会での

認証式。毎回、『これまでで初めての』という言葉が最初に付くほど異例づくめの一年間でした。この環境下にもかかわらず県内55のライオンズクラブメンバーは、例会開催もままならぬ中、各地では積極的にタイムリーなアクティビティを行っていただきました。やはりライオンズクラブは地域にとってどうしても必要な存在だと再認識出来た様に思います。

最後になりましたが、新年度は、伊藤前ガバナー、小関ガバナーの二年間の“はがゆさ”を払拭できますよう、頑張る覚悟です。



「一年を振り返って」

第二副地区ガバナー

L. 吾妻 正章

(大石田 LC)

小関ガバナーの元第二副地区ガバナーとして活動させて頂きました。一昨年11月より全世界に猛威を振るっております新型コロナウイルス感染症、社会経済に大きな打撃を与え我々のライオンズクラブの活動にも多大な制限がかかりました。ガバナー方針にのっとった活動もなかなか出来ず、LCIFキャンペーン100の趣旨もなかなか広めることができず多くの課題が残ってしまいました。新型コロナウイルス下ではありましたが、全国的な会議や複合地区の会議に数回参加させて頂き様々な地区の方々と交流を持たせていただき改めてライオンズクラブが国際的組織であると認識させられました。

また昨年7月28日の集中豪雨による最上川の氾濫で大石田町、山形県内が甚大な被害

を蒙りました。その折り、ライオンズクラブの方々から多くの奉仕を頂き大変大石田町は助かりました。そしてLCIFから交付金も頂き有意義に活用させていただきました。有り難うございました。

まだまだ続く新型コロナウイルス下での活動になると思いますが、次期佐野宏美ガバナーの方針に則り、もう一度ライオンズクラブへの思いを奮い立たせて、332E地区内の会員の皆様と一緒に制限下での活動を模索して行きたいと思いますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。





地区 LCIF コーディネーター
L. 野 川 亘
(天童舞鶴 LC)

地区会員の皆様にはライオンズクラブ国際協会設立100周年とLCIF設立50周年を記念しての、3年目を迎えた全世界のLCが参加して基金調達キャンペーン「LCIF キャンペーン 100・奉仕に光を」へのご参加有難うございました。

今年度もコロナ禍の中でクラブ例会開催も大変な1年でしたが会員の皆様のご理解ご協力を頂き、3年間の献金実績が目標比90%を超す献金を頂き感謝申し上げます。

又、今年はLCIF 交付金申請アクティビティとして、昨年度の山形蔵王LCの山形交響楽団楽器運搬車購入アクティビティに続き、

大石田地域災害復興被害者救済 (20,000ドル・大石田LC)
社会福祉法人さくらんぼ共生園第二ホームかばち建設資金 (50,000ドル・幹事寒河江臥龍LC)

長井市役所新庁舎案内電光掲示板 (11,480ドル・地区年次大会記念事業 (長井LC))

と素晴らしいアクティビティに繋がった一年でした。

是非これからも単一LCの資金だけでは出来ないアクティビティをLCIF資金を活用し大いにチャレンジして頂きたいと思っております。

7月からの新年度も4年目の「LCIF キャンペーン 100」にご協力を宜しく申し上げます。

一年間ご協力有難うございました。



地区 GMT コーディネーター
L. 須 貝 昇
(米沢 LC)

GMT コーディネーターを拝命し、早くも一年が過ぎ去りました。新型コロナウイルスに明け暮れ表向きな活動も出来ずに終わった一年間でした。活動としては、年初に全クラブに新会員募集の為のツール (地区オリジナルパンフレット) 配布と各ゾーンチェアパーソンにクラブ運営改革の成功事例の紹介を行い、この状況下でありながらもまずの感触を持っていました。しかし、残念な事に最終的には地区内から3つのクラブが解散し、52クラブになり、前年比95名減で1676名の会員数となりました。解散クラブ会員数を含めたこの減少数はこの状況下にあつて良しと言えるのかもしれませんが、いずれにせよガバナーの期待に沿えない結果となったのは大変残念です。全国的に会員数の減少地区が多数だった前年度ですが、中には伸びている地区もあります。方法・手段によっては会員数を伸ばす事も出来るはずですが、短期間で成果を出すことは難しいでしょうが、各クラブが将来を見据えた各々の対策を実行していけば数年後には必ず結果として数字に表れると思います。地区内クラブが益々活発な運営をされる事を願い、一年間のご協力への感謝の言葉とさせていただきます。 We Serve



地区 GLT コーディネーター
L. 浅 賀 隆
(藤島 LC)

当初、小関ガバナーの重点事業を受け、明日のライオンズクラブの未来を担うニューリーダーの育成に向け、将来の奉仕活動を実践できるクラブに成長できるよう各種セミナー、研修会の計画を立てました。そして新たにGLT地区活性化委員会を立ち上げ、「明日のライオンズクラブ」を創るため年次大会決議を目指し協議を重ね、年3回の委員会開催を計画しましたが、山形県内での新型コロナウイルス感染拡大を受け委員会の開催は1回のみとなり、まとめ上げることができませんでした。また予定していたリーダーシップセミナーや各種研修会も開催には至りませんでした。

小関ガバナーのご期待に応えることができず大変残念であります。1年間ご協力いただきましたメンバーの皆様に感謝申し上げます。



地区 GST コーディネーター
L. 寒 河 江 潤 一
(天童舞鶴 LC)

小関利一地区ガバナーのもと、キャビネット構成員として一年間務めさせていただき、ありがとうございました。新型コロナの世界規模感染拡大が止まらない状況になり、1年延期したオリンピックイヤーも、東京では非常事態宣言の中開催予定。ライオンズクラブもオンラインの活動が多くなり、存在感と奉仕活動の充実感が薄くなりました。今こそ会員一丸となり会員増強、充実した奉仕活動など、大きな課題を一つ一つクリアしてクラブの繁栄が求められています。地区グローバル奉仕チームは、複合地区、全日本レベルとのWeb会議での課題や推進事項を地区内に伝えることがあまり出来ませんでした。各クラブとも、コロナ禍でそれぞれではない状況下でしたが、臨機応変にGSTの役割を十分に熟せなかったことが残念で反省点です。会員各位にはご協力をいただき感謝を申し上げます。一年間大変お世話になり、誠にありがとうございました。



地区 FWT コーディネーター
L. 諏 訪 洋 子
(山形中央 LC)

昨年はコロナ禍真只中でのFWT コーディネーター就任に戸惑いながらも、その前年に務めさせて頂いた副コーディネーター時の熱い思いを頼りに、1年間があつという間に過ぎました。例えば2019年2月に東京・渋谷に結集した「全日本FWT会議」の熱気に心が動き、複合地区・同じ東北で活躍するFWTメンバーとの交流でさらに刺激を受け、この山形で新しい扉を開けていく勇気が湧いてきました。振り返ると、8月小児がん支援「外貨ドネーション」、10月「糖尿病予防DVD」制作&配布、11月小児がん支援「ヘアドネーション・デモンストレーション会」開催、1月「ヘアドネーションポスター」制作&県内全校配布、6月「ヘアドネーションポスター」県内理美容室贈呈など、副

コーディネーターや地区 FWT 委員、各クラブの皆様のご協力、所属クラブの声援を得て実施することができましたこと、心より感謝申し上げます。

①コロナ禍でもできること、②ライオンズクラブと FWT の活動を内外に知ってもらうことを大きな目標に、ガバナー重点事業であった「糖尿病予防」の DVD 制作では、GST との合同で実施できましたことも、GAT の一員としての FWT を実感する貴重な体験でした。この感動と充実の 1 年を頂き、本当に有難うございました。



情報テクノロジー・大会・マーケティング委員会 委員長
L. 伊藤 剛
(米沢松川 LC)

新型コロナウイルス蔓延防止による各種会議や大会の中止、並びにアクティビティ活動の自粛等で、思うような活動できなかった一年ではありましたが、そんな中でも、初のバーチャル国際大会の開催、会議や記念アクティビティのオンライン化などが各地で行われ、コロナ禍においてもテクノロジーを活用した活動が可能だということが証明された年でもありました。

これからは、ウイルスが社会に存在していることを前提とし、共存していかなければならないポストコロナの時代であります。リモートやテレワークのみならず、AI や IoT を活用した新時代の始まりでもあり、我々の活動もそれを見据えながら柔軟に対応していくことが肝要であるということを一年を通して感じました。

初の委員長としての活動でしたが、世界が変わり暮らしが変わり、その延長線上にある我々の奉仕活動も、変えていかなければならない節目にキャビネットの一員として携われたこと、並びに皆様のご理解とご協力に感謝を申し上げ、一年を振り返ってのご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



会則・アラート委員会 委員長
L. 山下 里美
(山形アルカディア LC)

初夏の季節、会員皆様ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は当委員会につきご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

7 月山形県豪雨災害に際しては、地区内クラブ会員の皆様の温かいご協力のもと復旧復興につなげることができ、緊急災害への基盤が着実に進んでいることと感ぜられる今日であります。

一年を振り返ってみるとコロナウィルスにより各委員会活動の中止や延期、自粛モードに流され、FAX で決議を取ることもありました。

ある意味良かったことは、WEB ツールで会議は十分できること、必ず対面ではなくとも議論しあえることはこんな世の中だからこそその在り方だったと感じます、今期このような事態で当地区でも解散クラブが発生し、会員の減少に歯止めがかからず残念なことであります。

近日新型コロナウイルスワクチン接種が始まり、非常事態が収まることを前提に、来期は各委員会が中心となりセミナーやフォーラム、対面での会議ができ、会員とコミュニケーションを図り会員増強や退会防止に寄与できるよう心より願っております。

最後になりますが、一日も早く平穏な毎日が訪れることを希望し、油断することなく毎日を過ごしていかなければならないと感じています。



YCE 委員会 委員長
L. 竹田 喜博
(長井 LC)

YCE の委員長を拝命して責任の重さを感じておりました。

今季は世界的に新型コロナウイルスが蔓延により、人々の活動、移動が制限される中、YCE 生の派遣、受け入れが出来なかったことは本当に残念に思います。332 複合地区における第 1 回 YCE 委員長会議はウェブ会議を行いました。会議においてマレーシア、ニュージーランド、オーストラリアの各国が当面の間、青少年交換は困難であるとの報告を受けております。まずは青少年の安全を第一に考えることが大切な事だと思います。コロナ禍の中で YCE 活動をどのように考えるか、難しい問題ではありますが、コロナ禍の終焉後に向けて各クラブとも、ライオンズクラブがこの事業を続ける意味は「奉仕の心、利他の心、サーバンドリーダーシップ」であるという事を念頭において、青少年が世界を学びながらお互いに強調する事がライオンズクラブの目指している世界平和につながると考えてこの事業を続けていく。(MD334 議長 L 仁科良三氏の言葉) 私たちも YCE 活動の原点に立ち交流事業が中止でも、立ち止まって平和の意義を考えたいです。



ライオンズクエスト・
青少年育成委員会 委員長

L. 田 中 義 一
(山形中央 LC)

2008年、ライオンズクエストセミナーを山形市で初めて開催して、これまでにワークショップ11回、セミナー20回、フォローアップセミナー4回開催し、受講者は教育関係者、生徒、ライオンズ会員等あわせて2,558名が、受講していただいております。

また、2009年より開催しております青少年健全育成のための、薬物乱用防止教育認定講師養成講座等もコロナ感染拡大の影響で今年度はすべて中止をせざるを得ない状況になりましたことは残念でなりません。

また、昨今の薬物汚染の現状はますます低年齢化の傾向にあり、深刻な社会問題になっております。そこで、学校、家庭、地域社会が一体となり薬物乱用防止教育に対処していかなければなりません。是非、今後のコロナ禍の状況を見極めて薬物乱用防止講座の開催、又ライオンズクエスト〈ライフスキル教育〉の推進と啓発活動をライオンズクラブ会員の皆様をお願いいたします。一年間ありがとうございました。一日も早く、コロナの速やかな終息を願うばかりです。



アイヘルス・献血・献眼・
臓器移植推進委員会 委員長

L. 田 村 晃
(藤島 LC)

この委員会 何をしていけばいいのだろうか？

自分は何ができるのだろう 解らない事ばかりでした。その中で献血だけは昔からやっていたのでとりあえずそこから始めさせて頂きました。

毎年 委員長の皆様が目標とする

・献血1万人達成運動の推進 今年度は何とか達成できました。

各クラブの皆さんの協力のたまものと思います。ありがとうございました。

②LEHPの使命

寿命が急速に伸びていること視力を脅かす疾患の発生率が増加していることによって多くの人々がリスクにさらされています。糖尿病性眼病 緑内障等の早期発見適時治療の必要性を地域社会に広める事が重要と考えます。

・献血・献眼・臓器移植（骨髄移植も含む）

献血の次に皆さまが協力をしているのはこの事業かと思えます。かく言う私も夏の県庁での「骨髄提供ドナー登録推進説明会」や 三川イオン等での実地研修会

おかげさまで説明員の資格も取らせていただきました。献血会場で募集する事によってドナー登録の為の血液検査を簡素化することが出来また待ち時間も有効に使うことが出来ました。最初は声かけさえ難しかったのですが 募集してみると若い方はほとんどの方が協力してくれました。感激でした。多くの方がライオン同様、奉仕の心を実感するうれしい体験でした。コロナ禍の中、行動などは制限されセミナー等の集会は出来ませんでしたが特に必要とされている骨髄移植、献血推進、この2点については満足できた結果となりました。以上一年間の反省です。



青年アカデミー委員会 委員長

L. 洪 八 満
(酒田シーサイド LC)

普段とは全く違う、正常ではない状態に最後まで翻弄された一年でありました。

このような状況下においても、何か出来ることがないのか？と考えているうちに時間だけが過ぎて行ってしまう、年度末を迎えることとなってしまったことは、無念の一言であります。

この委員会の存在は、キャビネットの中でも自由度が高い、自由が許された委員会であると考えています。であるからこそ、もっとアイデアを捻り出して新たな挑戦をすべきだったのではないかと反省しておりますし、何も無いところから作り上げてきた先輩の偉大さを思い知ったところであります。

コロナ禍を通り抜けた先にどのような社会生活が待っているかはまだ想像できませんが、今まで当たり前に出ていたことが出来なくなるのかも知れません。

しかし、ライオンズクラブという団体、組織においては人と人との生身の付き合いは、今後も間違いなく必要であり、最大の命題である会員拡大への一番の原動力になるはずだと確信しております。

小関ガバナー始め、この気付きの機会を与えていただいた皆様に深く感謝致します。

一年間ありがとうございました。



1R・1Z ゾーン・チェアパーソン

L. 長 瀬 洋 子
(山形中央 LC)

昨年、副ゾーンチェアパーソンとして練習を重ねましたが、本番になってもコロナウイルスが蔓延して終息しない状況でした。この一年 ZC としての満足できる活動が出来ませんでした。ガバナー公式訪問例会・三役協議会 8 月に 1 ゾーンと 2 ゾーン合同で開催出来たことが幸いでした。その後は、例会会食の自粛勧告や会議中止などとても残念でした。

2 月になって、山形センチュリーライオンズクラブの解散という事件が持ち上がって、小関ガバナーや、他クラブからも解散を回避する方法は何かないかといただきましたが、ZC の私の力不足からコロナに負けてしまっただけで解散を引き留めることが出来ませんでした。本当に残念です。会員数の減少が大きな要因でした。どのクラブも毎年の課題として掲げている『会員増強』です。合言葉のように呪文を唱えるのではなく、各クラブの一人一人の会員がライオンズの崇高な精神を広く発信してライオンズの仲間を開拓して増強に心掛けていきたいものです。今年は、ワクチン接種が広がり本来の奉仕活動を展開していけるとと思います。今年一年のご理解とご協力本当にありがとうございました。



2R・1Z ゾーン・チェアパーソン
L. 横山 昭子
(米沢松川 LC)

2020 年～ 2021 年度はまさに新型コロナウイルスに翻弄された 1 年でした。ガバナー公式訪問をどのような形で開催するかということから始まり、年度末のリジョン合同例会の開催についての最終判断まで、刻々と変わる新型コロナの感染状況を見ながらの運営となりました。結果的には、ガバナー公式訪問は懇親会なしでの開催、リジョン合同例会は新旧三役引継ぎ会のみという異例の形で行うこととなりました。またキャビネット会議が書面決議となったことで、ガバナー諮問委員会も開催せず、ゾーン合同新年例会やガバナーを讃える例会も中止となってしまいました。例年通りの行事をすることができないもどかしさもありましたが、コロナ禍でもゾーン合同献血アクティビティは順調に行うことができ、目標の 1000 人献血も達成することができました。このゾーン合同献血アクティビティはガバナーにも認めていただき、地区年次大会アワードで社会福祉・献血推進賞銀賞を受賞することができたのが、この 1 年間で最大の喜びです。異例尽くしの任期でしたが、再び活発なライオンズ活動ができることを願いながら、年度を締めくくりたいと思います。1 年間、ご協力ありがとうございました。



3R・1Z ゾーン・チェアパーソン
L. 高野 晴州
(西川 LC)

今年度の初めは、副 ZC が終わっていいよ ZC か！早く終わって欲しいものだなあと思っておりました。

そして最初の仕事は、各会場の例会訪問、滑り出しは良かったのですが、5 会場全部終わったのが 4 ヶ月半後、コロナの影響もありその後は、例会があつたりなかったり、あげくのはてに、私個人的な事ですが、入院、手術、自宅に帰って来たのが 7 月末と非常に忙しい日々でした。それでもこうして ZC を勤めることが出来たことは、副 ZC はじめ皆様のおかげでございます。

これら一連のこと通しで感じたことは、ライオンズクラブの精神なのだということでした。ZC 精神＝奉仕＝アクティビティ！キャビネット会議が中止になっても各会場の奉仕活動が行われております。

思いやり心を持った人々が集まり地域に奉仕します。それがライオンズクラブのモットーです。これからもメンバー同志で、周りの方々がより豊かになることを願い、奉仕活動をしてまいります。



2R・2Z ゾーン・チェアパーソン
L. 渡部 辰雄
(飯豊 LC)

2020-2021 年度第 2R 第 2Z の 6 クラブの会員皆様のご理解とご協力をいただき、大過なくゾーンチェアパーソンを務めさせていただきました。

今年度は飯豊 LC のスポンサークラブである長井 LC から小関利一地区ガバナーの誕生であり、ゾーン内 6 クラブがホストクラブとして最大限の協力を行うことで臨んだ 1 年でした。

しかし、コロナウイルス感染拡大の収束が見えない中、各クラブとも計画した事業が中止になり残念な 1 年でもあったと思います。

ゾーンチェアパーソンの活動として年度当初は 6 クラブの例会を訪問させて頂きました。

各クラブの例会運営の方法や会食、懇親会の持ち方など色々と工夫されていて大変参考になりました。

また、年度内 3 回の諮問委員会を開催しました。各クラブから活動状況の報告、会員増減の状況、キャンペーン 100 の進捗状況、コロナ禍の中での新たなアクティビティなどを発表して頂き情報交換、情報の共有ができ有意義な委員会であったと思います。

最後に準備万端整っていた第 67 回地区年次大会を開催出来なかったことが残念でなりません。コロナウイルス感染症の一日も早い終息を願うものです。



3R・2Z ゾーン・チェアパーソン
L. 武田 克二
(天童舞鶴 LC)

本年度も、コロナウイルスに振り回された年でありました。前半は、スムーズに例会が行われ、そしてガバナー公式訪問も出来大変喜んでおりました。ガバナーを囲んでの懇親会は、中止となりましたが、三役協議会そして合同例会、その中において新入会員の入会式は、本人にとって忘れられない時間になったのではと感じています。ガバナー始め三役、キャビネットの皆様には感謝申し上げます。

後半につきましては、コロナウイルス感染状況の悪化により会議も自粛となり、各クラブ大変辛い毎日でしたが、二つの大きなアクティビティを行う事が出来、クラブメンバーに感謝申し上げます。一つ目はチャリティーゴルフコンペによるスペシャルオリンピックスへの支援協力。二つ目は天童市内小中学校への消毒液寄贈事業。その他、献血推進に協力と、いつもの年よりも力の入った活動であり、大変感謝するアクティビティが出来た事に嬉しく思っています。一年間のご協力に対し会員皆様に感謝申し上げます。



4R・1Z ゾーン・チェアパーソン
L. 加 藤 克 彦
(尾花沢 LC)

ライオンズクラブの繋がりの大事さを実感した一年でした。7月末の豪雨災害ではアラート繋がりでSNS利用した物資の供給で全国のライオンズクラブから支援をいただきました。

遠くは、334-D2R1Z福井県 高岡ライオンズクラブ他多くのクラブから義援金、支援物資を届けていただき深く感謝しております。

LCIF交付金地域復興交付金として20,000\$を「ガレキの運搬・処分代金」の一部として活用させていただきました。災害支援交付金も防災準備交付金・緊急援助交付金・地域復興援助交付金・大災害援助交付金とあり状況に応じた交付金活用ができることもLCIF交付金の特徴であります。

ICTを活用したりリモート会議やSNSでのクラブ交流、地域が違って何処でも遣り取りができる仕組みを、災害支援だけでなく繋がりを持ったライオンズ活動が大事な時代になりつつあると思います。



4R・2Z ゾーン・チェアパーソン
L. 佐 藤 日 登 志
(真室川 LC)

7月に4R2Z就任し前任の田中より事務引き継ぎし内容の確認と具体的な経過をお聞きして中々ハードな内容と責任の重さを実感しつつ昨年度同等コロナ禍の散発的な事象の中事業運営の当初からの雰囲気悪さを予感しつつ就任した。

振り返って思うことは、ゾーン内各クラブの事業内容の把握と各クラブ訪問の時間が取れなかった事が残念でならない。

事業内容の把握が出来ない事により重複内容の献血活動などお互いの事業に組み入れ一人でも多くの提供者を確保出来たのでは無いかと思います。又クラブ訪問が出来なかった事はゾーン内ライオンとの交流の場が取れなく多数あったであろう活動機会の減少に繋がったと思います。

コロナ禍の今期の状態でしょうがない一面が有ったとは言え計画倒れに任期の終了は誠に残念であった。

今後のライオンズ活動にこの経験を活かしつつ所属クラブのアドバイザーとして盛り上げて行きたい物だと思っております。又他ゾーン同期の皆様と今後共お付き合いを願う今日この頃です。



5R・1Z ゾーン・チェアパーソン
L. 大 川 幸 清
(余目 LC)

1年間の副ZCを務めライオンズクラブのZCの役目を勉強させていただいた後の、ZCへの就任。コロナ感染が収まらない状況下でのスタートでした。当初は感染も落ち着いており、クラブ3役全員出席でのゾーンミーティングの開催、そして各クラブ訪問を実施してまいりましたが、感染拡大を受け、ガバナー訪問の懇親会は中止に、その後のゾーンミーティングは、各クラブ3役の会長だけの出席での開催となりました。年末からは更に感染の拡大が続き、キャビネットからの要請で、例会の自粛をし、毎年恒例の合同新年会も中止といたしました。その後3月まで自粛が続く事となりましたが、各クラブコロナ禍の中に於いて、感染拡大に十分に配慮し、出来るアクティビティを実施していただきました。ゾーン内でも私自身、実施出来るのか実施出来るなら、どのように開催したらいいのかを悩みながらではありましたが、ゾーン内で協議しながら進めてまいりました。

どのような事でも、楽しい事、うれしい事がなければ長続きは難しいと思います。ライオンズ活動も同じと考えます。クラブ員同士の交流を深める懇親会が楽しい事、うれしい事のひとつと思っており、その開催が出来なかったり規制があったりした事は残念な思いであります。そして酒田さわかLCクラブが解散に到った事も残念な事であります。又他ゾーンに於いても解散クラブが発生しており今後の懸念材料と考え、原因のひとつである会員増強が急務と考えます。

最後にライオン各位、キャビネット役員各位に対し、厚く御礼申し上げますと共に、益々のご健勝でありますことをご祈念申し上げます。



5R・2Z ゾーン・チェアパーソン
L. 上 野 岩 雄
(鶴岡朝陽 LC)

2019年暮れに発生した新型コロナウイルスが未だに終息の兆しが見られないままで1年を終えようとしております。今年度5R2Z ゾーンチェアパーソンとして1年間活動を行いました。自分なりに計画を立てて、各行事及びアクティビティ活動参加に努めて参りました。コロナウイルスの関係で予定された活動は実行されなく必ずしも満足のいく1年ではなかったようでやや消化不良の感が想い受けられます。コロナウイルスに負けないでとの想いが創意工夫を行い、かつて試みたことのない活動もみうけられました。例えば密を防ぎ外での日本海の海岸清掃を行ったり、会社組織で献血の奉仕を行ったりでコロナだから何も出来ないではなく、どうすれば活動が出来るようになるのかとの工夫も見い出せたと思います。昨年度に続き年次大会も中止になり会員の交流が疎遠になりライオンズクラブ自体そのものの現状が危惧される所です。先月よりのコロナワクチン接種が始まり確実に改善され感染者が減少することに期待をする所です。次年度こそコロナウイルス感染が改善され今まで以上にライオンズクラブの活動が行なわれる様にお祈り申し上げます。結びに今年度1年間皆様にお世話になりました事に感謝を申し上げます。誠にありがとうございます。



第1R・第1Z

ZCL・長瀬 洋子 (山形中央LC)

昨年の7月から今年の6月までの一年間について報告いたします。332-E地区の第一リジョンでは、合同のアクティビティは、何もできませんでしたが、各11クラブでは、ウィズコロナ・ポストコロナを踏まえて活動をしていただきました、献血活動では、大声など出さずにコーヒーコーナーを設置して大変喜ばれた報告など載いております。また、震災から10年たちましたが復興支援として被災地に役立つように門脇小学校に50インチモニターな

どの購入費に支援をしたこと等報告いただいています。各クラブにおいて、コロナ禍の中で創意工夫をして、ライオンズの奉仕の精神でアクティビティを実施いただきました。スポーツ大会などすべて縮小と延期・中止となり本来の活動は、ソーシャルディスタンスとマスク着用と消毒など制限が多くとても大変な一年でした。

やっと、ワクチン接種がスタートしてきましたが、もう少し我慢の時が続きます。コロナ新規感染者報告ゼロがニュースにならない位まで頑張りたいと思います。ライオンズの仲間たちと経済活動と感染防止を両立しながらコロナ禍だからこそ出来ることに知恵を絞って活動を続けていきます。小関ガバナリー始め、キャビネット関係の皆様一年間ありがとうございました。



第2R・第1Z

ZCL・横山 昭子 (米沢松川LC)

2R1Zでは、ゾーン合同アクティビティとして献血奉仕事業を行っています。毎年、献血者数1,000人を目標に掲げて活動していますが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、献血者見込み数は800人程度と予想していました。11年目にして1,000人献血の記録がストップしてしまう恐れがありましたが、県内でコロナ感染が広まり、感染者の少ない置賜地方で献血を実施したことから、予定より献血車の動員が増えました。結果的に今年も1,000人献血を達成することができ、1,000人目の献血協力者に記念品を贈呈するセレモニーも行うことができました。

また今年の献血奉仕では、我々ライオンズクラブの協力がより必要とされました。献血受付での来場者の手指消毒、会場の消毒などをライオンズクラブメンバーが担当することになったのです。献血協力の呼びかけだけでなく、より積極的な奉仕ができたことで、メンバーの意識も変わったと思います。この献血奉仕では、2R1Zの4クラブと一緒に協力し活動を行います。そのためにゾーンクラブ間の結束も強まるというメリットもあります。その意味でも、献血合同アクティビティは今後も続けていきたいと思っています。

また、2R1Zには山形第一レオクラブも在籍しています。2年程前に休止状態だったレオクラブを復活させ、ゾーン内でアクティビティを行ってきました。今年度はレオクラブが海岸清掃を計画し、上

野ゾーンチェアパーソンのご協力の下、鶴岡市湯野浜海岸で清掃活動を実施しました。5R2Zからたくさんのメンバーに参加していただき、5R2Z、2R1Z、そしてレオクラブの合同アクティビティという、新たな奉仕の形を実現することができました。今後はこのような合同アクティビティも増えていくのではないのでしょうか。

コロナ禍の中でしたが、1年間ゾーンチェアパーソンとして、このような奉仕活動の一翼を担うことができましたこと、心より感謝申し上げます。





第2R・第2Z

ZCL 飯部 辰雄 (飯豊 LC)

2020-2021 年度はコロナ禍の中で計画されたアクティビティがほとんど実施できない状況でした。そのような中、第2ゾーン内6クラブがコロナ禍に於いて、新たに取り組んだアクティビティ、特筆すべきアクティビティ等を報告頂きましたのでご紹介いたします。

【川西山形 LC 会長 L 飯田 誠】

川西山形 LC は 2020-2021 年度のコロナ禍の中でアクティビティが軒並み中止になっております。そんな中、唯一は川西山形ライオンズクラブ 55 周年事業記念アクティビティとして川西町の新庁舎新築記念に、「町民憲章パネル」を寄贈し新庁舎玄関に設置しました。

【高島 LC 会長 L 小枝 利次】

コロナ禍の夏にマスクを着用して登下校する小学生のために「熱中症応急処置セット」を町内学童保育所 7 箇所に寄贈。新型コロナウイルス感染者への偏見と差別の防止啓発のために「ストップコロナ差別」「すべての医療従事者



に感謝を」のポスター 2 種を作成し、町内主要施設と会員の事業所に掲示。薬害乱用防止メッセージを印刷した花の種子を小中学校へ寄贈しました。(写真は寒河江信高島町長と共に)

【長井 LC 会長 L 安部 秀一】

世界の子どもにワクチンを
今年度初めて行ったアクティビティにエコキャップ運動があります。ペットボトルのキャップを集めて『NPO法人世界の子どもにワクチンを日本委員会』に送ると、その売却益で世界の子どもにポリオワクチンを送ってくれます。今までゴミとして捨てていた物を再資源化し、なおかつ子供たちの命を救うことができました。

【飯豊 LC 会長 L 大滝 康弘】

今年度は、小関利一地区ガバナーが掲げる三つの実践目標の一つである「キャンペーン 100 奉仕に力を」の実現に向けて取り組むこととし、飯豊 LC に与えられた目標は \$ 3,200 でありました。

L 渡部 ZC が \$ 1,000 と他全会員 24 名が \$ 100 とし、合計 \$ 3,400 となり目標を達成することができました。

【白鷹 LC 会長 L 丸川 雅春】

ガバナーと語る会
スポンサークラブより地区ガバナーが選出されましたことは大変貴重なことであり、コロナ禍の中ではありますが、昨年 9 月に小関地区ガバナーお招きし「ガバナーと語る会」を開催しました。小関ガバナーの実直な人柄に直接触れることができ、我々には非常に意義深いものになったと思います。そしてこの「語る会」が会員それぞれの今後の活動において、少しでも前に進もうとする気持ちに繋がって頂けたなら幸いです。



第3R・第1Z

ZCL 高野 晴州 (西川 LC)

今年度は、コロナウイルスの影響でアクティビティの活動にも非常にきびしい状況ではと思っておりましたが、何とか出来ることをやっていたいたなあと感じております。

最初、各会場の例会訪問ということで回らせていただいた訳ですが、全五会場回らせていただくのに 4 ヶ月半という日程を要し、今年はどうなるのだろうと大変に不安になりましたが、各会場の皆様には、それぞれアクティビティに対しての思いが感じられ何とかかなるか！との思いにならしていただきました。

そして各地区のライオンズクラブの方々には、それぞれ地道に活動をしていただきまして今なのだなあと感じております。

各ライオンズクラブ共に、コロナにめげず、献血活動、ひかりの箱募金活動はもとより、いろいろな奉仕活動やボランティア活動そして草刈り作業等を行っていただきました。

その他にも河北ライオンズクラブからは、今年度小学校に入学される児童全員に対して黄色い帽子の贈呈、そして「溝延街道を水仙の花ロードにしよう!」ということで 300m に渡り植栽していただきました。

又寒河江臥龍ライオンズクラブからは、毎週 2 回の「少年少女柔道教室」の指導、途中コロナの影響で休みもありましたが、年間 70 回を上回る指導ご苦労様でした。

これからコロナウイルスに敗けない勇気をもって、奉仕することの喜び、感動を糧に継続して行きたいものでございます。





第3R・第2Z

ZCL・武田 克二 (天童舞鶴 LC)

今年度も大変な年に、社会福祉推進賞特別賞を受賞する事が出来た事、深くメンバーに感謝申し上げます。第3R第2Z内合同のアクティビティは、最初4つの事業を計画しました。

その中において、コロナ禍で会議、例会が自粛となり、かなり大変な事態となりました。

コロナ禍の隙間を見つけ、メール、ライン等を使いメンバーとのコンタクトを取り、それがいつの間にか大きな輪となり、良い方向に向かったのでは…と思っています。

年度内活動として一つ目は献血推進活動、二つ目は障がい者支援、三つ目は第3R第2Zだけのスペシャルオリンピックスへの支援、四つ目として天童高原ふれあい芝桜整備事業でした。

しかし、天童高原ふれあい芝桜整備事業についてはコロナ禍の中で活動が出来ず解散となりました。大変残念ですがコロナが無ければと思っています。

しかし、その代わりに一つ大きなアクティビティ

が出来た事は大変嬉しく思っております。

天童市内小中学校全校に消毒液の寄贈を行った事です。各クラブメンバー一人一人から支援（ドネーション）をいただきました事、メンバーの暖かい心に感謝申し上げます。

この一年、私は第3R第2Zの絆がまた一つ大きく深まったのではと思っています。

最後にメンバー皆様に感謝申し上げ報告といたします。



第4R・第1Z

ZCL・加藤 克彦 (尾花沢 LC)

昨年からのコロナ禍でアクティビティ活動が、思うようにできなかったようである。

特に地域住民参加の事業チャリティーゴルフ等活動が出来ず事業資金獲得が出来ない状態でした。

東根さくらんぼライオンズクラブと東根ライオンズクラブは年度の早い時期7月にチーム「やくらんぼう」の活動を大石田で実施しておりコロナが幸い穏やかな時期が幸いました。

7月末に山形県を襲った50年に一度の豪雨被害で降水量は最上川観測史上最大を更新し最上川の大規模な氾濫は1967年の羽越水害以来だった。

アラートでは、被害世帯に対するボランティア活動や後方支援炊き出し等全国のライオンズクラブから数多くの支援物資等の支援をしていただいた。

支援物資については被害地域の要望する物資供給ができ支援先との密な連携連絡が上手くいったように思えます。ただ、コロナ禍でボランティアも県外から受け入れをせず、県内限定にとどめた活動でした。

秋に糖尿病セミナーを大石田で開催しZ内クラブのメンバー54名の参加で吾妻クリニック理事長吾妻正章（第二副地区ガバナー）先生の講師で行われた。

地区ガバナーアワードグランプリ賞を受賞した東根さくらんぼライオンズクラブ「第二白水壮バーチャル紅葉鑑賞」～笑顔あふれる明日へ～はコロナ禍で活動を自粛している最中で秋の銀山温泉に外出したように思わせるようなバーチャル紅葉鑑賞は大成であった。

最後に、コロナ禍で諮問委員会・ゾーン内交流会・年次大会等が中止になりライオンズクラブ活動の自粛と1年間ご協力いただいた4R1Z内各クラブに心より深く感謝申し上げます。





第4R・第2Z

ZCL・佐藤 日登志 (真室川LC)

ZCとしてコロナ禍の現状を見た時に自分に出来る事業は何かの自問した時の答えを出しあぐねていました。

結果、まず2Z内アラート委員会を設置する事としました。2Z長南アラート委員の賛同を取り付けると同時に大橋副ZCに賛同を頂きZ内5クラブに趣旨説明を行い了承を得ることが出来ました。

2Z合同の事業を実施するに当たり大まかな意思疎通の段取りが出来たので合同アクティビティ事業を何にするかを絞り込むことにしました。まず、脳裏に浮かんだのはコロナ禍で大変なご苦勞を被っている医療関係者が身近に存在していることが分かっていることで文中当初で自分のストロングポイントを活かした事業を実行することとしました。

実施内容は県立新庄病院の看護師全員に当社で生産、加工、販売を行っている自家製ブラックベリーフルーツジャムを寄贈することし事務局から小関ガバナーの事前了承を取って頂き2Z内各アラート委

員を通してクラブ理事会了承を得てZ内5クラブ体制を整え新庄病院の担当者との交渉に臨み個人の寄付行為は受付出来ないとの回答ですがライオンズクラブ国際協会332-E地区小関ガバナーの元新庄地区5クラブで看護師の皆様へ何とかご苦勞に感謝の意を表したいとの熱を汲んでいただきライオンズクラブのもっとである、We Serveの精神を伝え表現することが出来ZCとして合同アクティビティの実施に漕ぎつけたことは、成果として自分自身特筆できることと自負出来るのではないかと思います。実施するにあたり下地の整理・調整・相談を実施し各クラブの賛同を得ながら纏め上げる様心掛けた部分は有ります。各クラブの財政的な負担も現実有ると思いますがZC事業の意義を理解して頂くことも大事ではないかと思います。



第5R・第1Z

ZCL・大川 幸清 (余目LC)

コロナ禍の中で出来得たアクティビティについてご報告いたします。

令和3年4月12日に酒田リッチ&ガーデンにて、ニューメンバーオリエンテーションを開催しました。出席者紹介の後に講師を酒田みなとライオンズクラブの三嶋茂喜Lに務めていただき、5名のニューメンバーに対し、332-E地区で制作したCDを見た後に、ライオンズクラブで使われているいろいろな用語について詳しく説明をし、ライオンズクラブの基本の考えについて話をさせていただきました。その後質疑応答をした後、受講証明書を伝達し閉会しました。

6月25日に酒田ホテル・リッチ&ガーデンにて「災害時における協定に関する協定書」の締結式を開催しました。5R-1Zからはキャビネット委員と各クラブ会長と第一副会長の出席のもと、出席者紹介の後に、私からの挨拶で昨年の最上川氾濫発生時にLCの活動、援助等の内容についてふれさせていただき、国、県レベルについてはすでに協定書が結ばれている事を話し、災害発生時に備え危機管理に

対応し、準備をしておく事は極めて意義のある事の考えを述べ、お互いに連携を深め協力体制のお願いを申し上げました。各社会福祉協議会会長より災害時に協力体制を整える事は、重要でLCからの協力をいただける点については、大変ありがたい事で感謝するとの言葉を頂戴し、連携し協力しながら災害発生時に備えていく事を確認出来た点は、大変心強いとの話をいただきました。その後、4名にて協定書に署名、押印し協定書の交換を行い閉会となりました。

コロナ禍の中ではありましたが、協力をいただいた各クラブ員の皆様には厚く感謝申し上げます。又、5R-1Z内ではふたつの事業しか開催出来なかったことはゾーンチェアパーソンである私自身が反省するところであり、当初各クラブのアクティビティに参加し一緒に活動したいとの考えがありましたが、全く参加出来なかった事についても反省するばかりであります。今後はLCの仲間を増やす事を自身の課題とし奉仕活動に務めていきたいと存じます。





第5R・第2Z

ZCL. 上野 岩雄 (鶴岡朝陽 LC)

年度当初に予定されたアクティビティ活動はすべてが実行された訳ではなくていささか消化不良の所があったと思います。しかし各クラブが創意工夫をしてコロナウイルス感染による状態の中で新しい取り組みが見受けられました。例えば密にならない様に外での活動湯野浜海岸の海岸清掃（米沢松川レオクラブ、5R 2Z 合同）鶴岡朝陽ライオンズの都沢湿地保全イベントの参加、ライオンズクラブ所属会社の合同の献血奉仕、鶴岡鶴陵クラブのフォトコンテスト等行っていなかったアクティビティが企画されたことはまさにコロナに負けないで活動を行ったわけであります。コロナウイルス感染があるから何も出来ないではなくどうすれば活動が出来るようになるのかとの工夫も見い出せたと思います。LCIF 献金に関しても皆様のご理解と、ご協力にて昨年以上の成果が得ることが出来ました。献金なされた各クラブの会員の皆様大変ありがとうございました。これからもコロナウイルスの感染が終息し安心して

活動が出来るまでは、ままだ創意と工夫が必要になると思います。今後は新しい様式の活動も模索を考えていくべきだと思います。次年度こそコロナウイルス感染が改善され今まで以上の活動ができることをご期待申し上げます。1年間ご指導、ご協力をいただきまして誠にありがとうございました。



2020-2021年 MJF\$1,000寄付者

ご協力ありがとうございます。
(2020.7 ~ 2021.6)

月	R	Z	クラブ名	氏 名	回 数	送金日	□ 数
7	1	2	山 形 霞 城	無 着 哲 哉	13	7/9	1
				堤 孝 雄	18	7/10	1
			山 形 千 歳	伊 藤 隆	2	7/1	1
				今 野 孝	4	7/1	1
				前 橋 章 喜	1	7/2	1
				佐 藤 英 昭	4	7/13	1
				田 中 俊 道	31	7/16	1
	2	2	長 井	小 関 利 一	5~7	7/17	3
				増 田 源 幸	1	7/28	1
				手 塚 直 樹	1	7/31	1
	3	1	寒 河 江 臥 龍	角 田 裕 一	28	7/1	1
		2	天 童 王 将	奥 山 紘 一	16	7/29	1
				佐 藤 伸 一	1	7/29	1
			天 童 舞 鶴	野 川 亘	23	7/2	1
	4	1	大 石 田	吾 妻 正 章	8	7/6	1
8	1	1	山 形 中 央	長 瀬 洋 子	1	8/13	1
		2	山形アルカディア	山 上 嘉	12	8/12	1
	2	1	米 沢	鈴 木 宏 政	3	8/20	1
				水 見 江 一	1	8/20	1
				相 田 修 一	3	8/24	1
9	3	2	天 童 王 将	大 高 廣 志	3	9/28	1
	4	1	東 根	天 野 禎 二	14	9/2	1
10	4	2	新 庄	門 脇 茂	2	10/19	1
	3	1	寒 河 江	市 村 孝 夫	2	10/23	1
11	1	1	山 形 蔵 王	伊 藤 明 彦	6	11/25	1
		2	上 山 あ ら ら ぎ	齋 藤 利 孝	1	11/4	1
			山 形 紅 花	佐 藤 秀 明	1	11/11	1
	3	1	河 北	後 藤 健 治	9	11/12	1
				升 川 峰 亨	1	11/12	1
			寒 河 江	山 内 貞 範	4	11/4	1
		大 沼 有 康		1	11/4	1	
		2		天 童 中 央	佐 野 宏 美	5	11/10
			太 田 高 裕		1	11/10	1
	4	1	真 室 川	遠 田 武 彦	8	11/12	1
	5	1	酒 田 み な と	齋 藤 好 正	25	11/6	1
12	5	1	酒 田	西 村 公 夫	3	12/17	1
		2	鶴 岡 朝 陽	長谷川 昌 弘	12	12/21	1
				上 野 岩 雄	2	12/21	1
				齋 藤 伸	1	12/21	1
1	5	2	藤 島	成 澤 剛	3	1/8	1
	3	2	天 童 舞 鶴	鈴 木 光 弘	1	1/22	1
	2	1	米 沢 中 央	小 島 康 貴	1	1/25	1
	3	1	寒 河 江 臥 龍	志 田 宏	1	1/25	1
2	1	1	上 山	佐 藤 晃 次	1	2/12	1
	5	2	藤 島	浅 賀 隆	11	2/19	1
	4	2	真 室 川	佐 藤 日 登 志	2	2/26	1
3	4	1	東根さくらんぼ	安 達 洋 平	1	3/16	1
	1	1	山 形 蔵 王	伊 藤 明 彦	7	3/17	1
	5	2	鶴 岡 中 央	有 賀 哲	3	3/22	1
	4	2	真 室 川	高 橋 秀 也	2	3/30	1
4	1	1	山 形 蔵 王	高 橋 和 成	4	4/28	1
6	3	1	西 川	高 野 晴 州	2	6/3	1
	4	2	新 庄 も が み	大 橋 一 夫	1	6/17	1
				沼 澤 貞 義	1	6/17	1
2	2	飯 豊	渡 部 辰 雄	1	6/18	1	

□数合計

57

月別新入会員・スポンサー 一覧 2020.7~2021.6年度

R	Z	クラブ名	月	会員名 (新入/再入/転入)	会員種別	スポンサー	
1	1	山 形	7	熊 谷 裕 治	正会員	村 岡 義 啓	
			11	鈴 木 良 彦	正会員	木 村 政 司	
		山 形 蔵 王	1	高 橋 啓 一	正会員	木 村 政 司	
			12	茂 木 政 樹	正会員	五十嵐 祐 子	
			3	清 野 中 利 敬	正会員	伊 藤 上 明 彦	
			3	田 中 利 之	正会員	井 井 孝 一	
			6	寺 崎 泰 文	正会員	高 橋 和 成	
			7	横 尾 尚 志	正会員	齋 藤 利 孝	
	上 山 あ ら ら ぎ	10	高 橋 洋 敦	正会員	五十嵐 直 哉		
		5	松 田 裕	正会員	杉 原 宏 二		
		2	山 形 霞 城	7	梅 津 智 浩	正会員	斎 藤 香 太 郎
				7	村 野 伸 太 郎	正会員	門 間 紀 雄
			山 形 千 歳	7	浅 野 弥 史	正会員	岩 門 幸 洋
				7	鈴 木 進	正会員	早 坂 昇 一
山 形 羽 陽	7		五十嵐 望 誠	正会員	富 樫 武 史		
	7		大 久 保 英 一	正会員	伊 藤 田 広 志		
山形アルカディア	7		板 垣 次 研	正会員	松 渡 敏		
	7		東 村 篤 一	正会員	渡 辺 敏		
R合計			19		19		
2	1	米 沢 中 央	7	佐 藤 信 幸	正会員	情 野 優 人	
			9	加 藤 真 二	正会員	小 島 康 貴	
		米 沢 松 川	8	矢 羽 明 美	正会員	伊 藤 剛 子	
			4	長谷川 雅 彦	賛助会員	横 山 恵 子	
	2	高 畠	6	海 谷 ひかり	正会員	伊 藤 剛 剛	
			6	佐々木 繁	正会員	高 橋 川 幸 一	
		長 井	1	井 上 典 嗣	正会員	増 田 源 忠	
			6	遠 藤 浩 樹	正会員	菊 地 辰 弘	
飯 豊	7	田 林 義 則	正会員	渡 部 雄 一			
	7	山 口 順 子	正会員	大 部 康 弘			
R合計			11		11		
3	1	寒 河 江	8	茂 木 寛	正会員	大 沼 有 康	
			9	岡 崎 あ 美	正会員	大 渡 邊 賢 一	
		西 川	7	小 奥 山 莊 一 次	正会員	荒 井 木 崎 貴 武	
			7	鈴 山 賢 大	正会員	尾 崎 利 行	
	2	天 童	3	佐 藤 大 介	正会員	小 野 藤 伸 一	
			7	中 河 達 正	正会員	佐 藤 伸 一	
			8	安 達 聖 次	正会員	佐 藤 伸 一	
			8	大 類 勝 洋	正会員	佐 藤 伸 一	
		天 童 王 将	8	今 田 勝 洋	正会員	佐 藤 伸 一	
			8	高 多 橋 静 雄	正会員	佐 藤 伸 一	
			7	高 多 橋 静 雄	正会員	長谷川 博 美	
			11	水戸部 英 一	正会員	佐 野 宏 美	
R合計			13		13		
4	1	尾 花 沢	1	菅 野 尚 子	正会員	阿 相 順 也	
			2	渡 会 友 補	正会員	永 沢 昌 彦	
		大 石 田	7	伊 藤 久 信	正会員	伊 藤 正 彦	
			8	野 賀 雅 司	正会員	伊 藤 清 好	
	2	東根さくらんぼ	10	高 橋 英 司	正会員	杉 浦 一 直	
			4	青 柳 知 義	正会員	前 田 秀 人	
		真 室 川	10	井 上 橋 慎 子	正会員	高 橋 秀 則	
			1	高 橋 慎 子	正会員	高 橋 秀 則	
新 庄 も が み	3	佐 藤 健 郎	正会員	高 橋 秀 則			
	8	伊 藤 重 成	正会員	長 澤 光 芳			
	R合計			10		10	
	5	1	酒 田	7	三 浦 良 一	正会員	小 林 元 雄
9				阿 部 孝 博	正会員	小 鷹 道 聡	
1				羽 田 亮 昭	正会員	小 野 木 昭 美	
2				羽 田 亮 子	正会員	羽 田 昭 美	
3				佐 藤 秀 之	正会員	小 野 木 聡 美	
6				加 藤 聡 愛	正会員	山 口 龍 二	
余 目			6	佐 藤 誠 守	正会員	小 野 木 聡 美	
			8	志 藤 賢 也	正会員	池 田 俊 一	
			1	齋 藤 下 賢 守	正会員	池 田 俊 一	
			7	齋 藤 賢 也	正会員	池 田 俊 一	
2		鶴 岡	11	佐 藤 嘉 博	正会員	大 瀧 郁 夫	
			4	梅 津 樹 妙	正会員	長谷川 夕 香	
			鶴 岡 朝 陽	2	齋 藤 恭 平	正会員	齋 藤 伸 誠
				2	齋 藤 恭 平	正会員	齋 藤 伸 誠
		3		阿 吉 永 隆	正会員	上 野 岩 雄	
		羽 藤 黒 島	3	吉 永 隆 隆	正会員	齋 藤 伸 誠	
			7	櫻 井 た か 子	正会員	齋 藤 伸 誠	
			7	鈴 木 郁 昭	正会員	工 藤 規 行	
		鶴 岡 中 央	7	佐 藤 友 昭	正会員	黒 木 和 亮	
			10	飯 鉢 正 樹	正会員	清 和 真 寿 美	
11	飯 鉢 正 樹		正会員	清 和 真 寿 美			
R合計			22		22		
地区合計			75		75		

第67回 地区年次大会

大会テーマ「コロナ禍で、一対一の励ましを。強く、強く、勇んで出発！」



ライオンズクラブ国際協会332-E地区
第67回地区年次大会 大会委員長

L. 青 木 章 一
(長井 LC)

地球温暖化・集中豪雨による土砂災害と自然環境の変化に加えて新型コロナウイルス感染症との闘いが繰り返されている昨今、332-E 地区第 67 回年次大会大会委員長を拝命いただき、身の引き締まる思いでありました。コロナ感染の終息を信じ、長井市民文化会館を会場に 4 月 29 日の大会成功にむけて実行委員会として準備をしまいましたが会議の回数を重ねるごとに規模縮小せざるを得ない状況となり、結果的には二年連続中止となりました。誠に残念でありました。L 小関利一ガバナーには大変申し訳ありませんでした。またそれまでに準備にご協力いただいた実行員会・ホストクラブ・関係各位の皆様にご心から感謝申し上げます。むすびに今回の新型コロナウイルスへの対応によって我々は新しい感染症への対応を学ぶ必要がありそうです。未知のウイルスということもあり特効薬の早期開発を切望いたします。



長井市役所新庁舎 (内容重治長井市長) へ
「案内用電光掲示板」の寄贈



ライオンズクラブ国際協会332-E地区
第67回地区年次大会 実行委員長

L. 安 達 雅 和
(長井 LC)

第 67 回地区年次大会の実行委員長を仰せつかりました L 安達雅和です。

大会テーマ「コロナ禍で、一対一の励ましを。強く、強く、勇んで出発！」でのスタート。

昨年の地区年次大会はコロナ禍でやもうえず中止になり、小関利一ガバナーは今年はどうしても行いたいとの想いで、2020 年 11 月 6 日第 1 回目の実行委員回を開催されました。

大会日程 2021 年 4 月 29 日開催地山形県長井市リニューアルオープンしたばかりの長井市民文化会館全国初となる駅舎のある新庁舎の開庁式と同時の大会長井市民あげでの歓迎会。

2021 年 1 月 20 日 2 回目の実行委員会その後 3 回 4 回と続くが、どうしてもコロナ禍での三密が及ぼす影響が大きな壁になりなかなか前に進まない状況でした。

大会までに残すこと 1 ヶ月を切り 2021 年 4 月 1 日コロナ禍が収まらない中で 5 回目の実行委員会を開催され最終的な判断が迫るなか、実施するか中止するか実行委員の意見に耳を傾け、小関利一ガバナーは地区年次大会はクラブ員全員参加で行いたいとの思いから、どうしても規模を縮小することもできず、参加者と関係者の安全面と感染防止の観点から中止の決定にいたりしました。

大会記念アクティビティは予定通り、長井市役所へ「案内用電光掲示板」の寄贈、長井南・北中学校へ「青少年育成活動支援金」の贈呈を行う事が出来ました。

大会に当たり、コロナ禍での委員会にも関わらず、参加されました大会関係者各位とクラブ員方々に、御礼と感謝申し上げます、これからのクラブ活動にご期待申し上げます。

< あとがき >



地区機関誌編集局長

L. 色 摩 武 愛
(長井 LC)

4 月機関誌発行できて一安心しました。コロナ禍の中、先が見えない状況でライオンズクラブ活動の実施計画を組む計画が続けられた。機関誌編集局メンバーの会議は紙面を作れるのだろうか？自問自答からはじまりました。小関ガバナーからはおのような時代だからこそクラブメンバーの意識疎通を語り、情報の共有ができる機関誌が重要な役割があると言われました。第 1 号「最上川」原稿割付から始め、原稿寄稿のお願い、発送する、締切期日まで心配が続いたが、予定通りに原稿が集まり、編集会議も明るくなりました。第 2 号、小関ガバナー公式訪問を終えて第 1 R 第 1 Z 第 2 Z 第 5 R 第 2 Z、各ガバナー訪問報告、委員会活動報告、第 3 号アクティビティ、最終 4 号は 1 年間を振り返って、地区 LCIF、CMT、GMT、GST、FWT、特集の紙面にまとめました。はじめる前は慣れない作業で大変心配しておりましたが各クラブのご協力、ご意見をいただき、際牛会まで発行することが出来ました。本当にありがとうございました。感染者の拡大中、観戦に気を付けながら、どんな小さな奉仕活動でも現在できるアクティビティを考え工夫し、たゆまぬ努力をされていることを思い知らされました。そして今後のクラブ We Sweve 抱負を語りあいが書かれていることに感動いたしました。ワクチンの接種も進み、いつもの日常が目前です。伸び々と活動ができることを信じて。



「肖像画 油絵 F10 号」

油絵を書き始めて 60 年ほどになります。年々上達していないようで、特に人の顔は思うようにならない、似ているか、似ていないか、他の人に見てもらわなければ判断がつかない、肖像画を描いてもらっても気に入るか気に入らないかも知れないし、でも描いてみたくなる顔がある、いつも付き合っている人の顔は描きたくるのである。ガバナー L 小関利一氏はこの一人、氏はライオンズクラブに長く在籍して地区ガバナーになられた、なんと理想を追い求め、苦難の道を選ばれたのか、感謝して肖像画を描いた 2021 年 7 月贈呈させていただきました。(L 色摩)



地区機関誌編集局

局長	L. 色 摩 武 愛 (長井 LC)
次長	L. 平田 伸一 (長井 LC)
局員	L. 高橋 伸昌 (南陽 LC)
局員	L. 藤田 修一 (高畠 LC)
局員	L. 清野 隆博 (白鷹 LC)

No.4 「八雲神社祭礼」



長井黒獅子まつり 油絵 F100 号

八雲神社祭礼は昭和30年頃まで毎年9月4日と5日に獅子舞が奉納されて来ましたが、祭りの構成員人数が少なくなり、行われなくなっていた。昭和44年あたりから地区の青年達7人が集まり、「にっこり会」をつくり、獅子舞をはじめた。八雲神社境内に手づくりの舞台をつくり、芸能人をよんで興業まで行うまでになってきた。最近では地区の青年会40名、子ども会が中心になっている。長井市黒獅子まつりは（令和元年）30回 5月18～19日、つつじの花が満開の頃おこなわれた。子ども獅子14団体を含む市内38の黒獅子団体が存在するなかで、毎年15前後の団体が順番に出場している。長井市観光協会によると2日間のまつりで10万人の人出があった。獅子舞の見どころは獅子と警護の力比べ。激しい攻防、祭りの最後の警護掛かり社殿に入れる場面が観客の感動をあたえられるところがクライマックスである。

〈絵・文〉地区機関誌編集局 局長 L. 色摩武愛

